

参 考 資 料 1
議 員 懇 談 会
教 育 総 務 課
令 和 5 年 1 2 月 4 日

学校の再整備に向けて

議会説明資料



葉山町教育委員会教育総務課
Board of Education General Affairs Division

新しい学び舎の方向性

シュリンク ヴーカ
Shrink と **V**UCA **+ AI** の時代を生きる児童生徒に対し

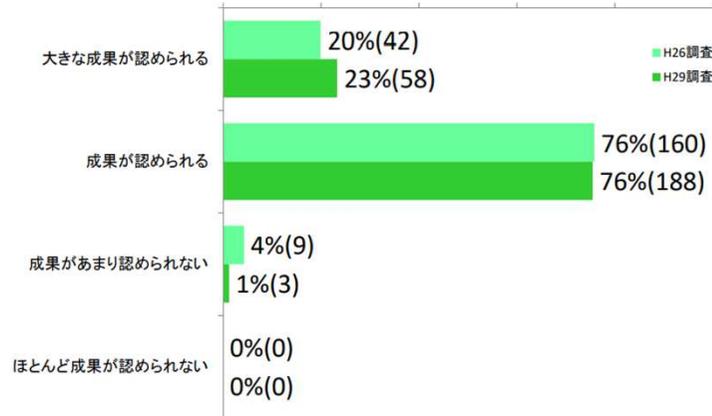
自分で 深く考え スキルを活かして 行動できる 力を獲得する鍛錬を

9年間の系統性が最大限に生かせるカリキュラム・環境で

学ぶため **小中一貫教育に最適な学校** の整備を目指す

小中一貫教育の成果

【公立】



【公立】

生徒指導等



回答: H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

33

【公立】

学習指導等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



【公立】

教職員の協働等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



回答: H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

34

小中一貫校施設形態別の満足度

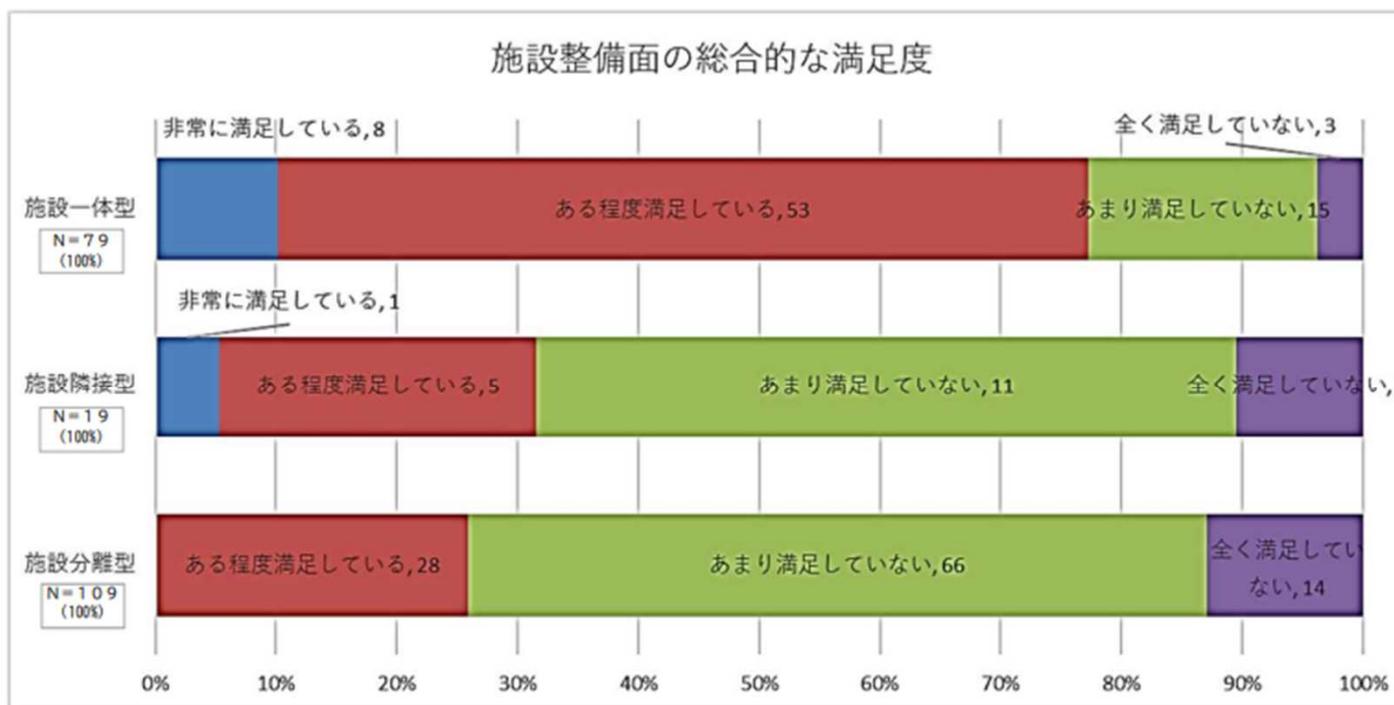


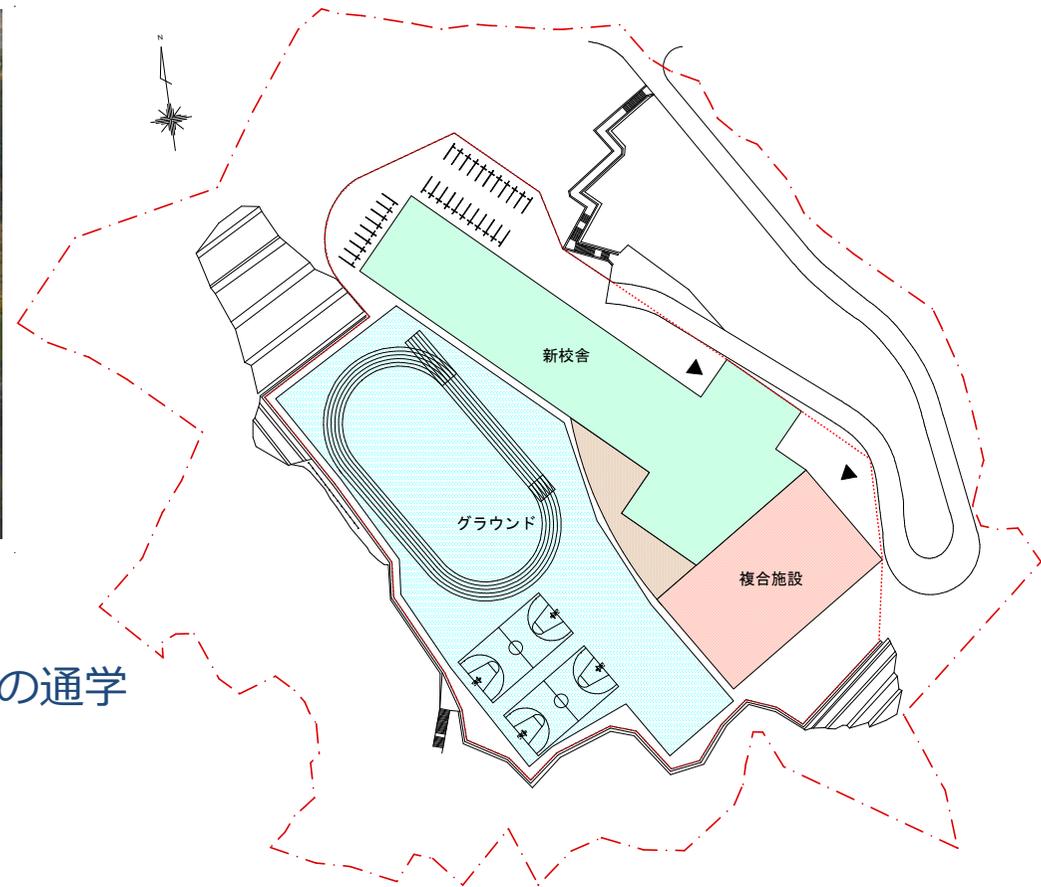
図3-1 施設形態別 施設面の総合的な満足度

(抜粋) 一体型は小学校段階と中学校段階の物理的な距離が近いため、小中一貫教育を運営しやすく、施設的な効果も感じやすいという一般的な想定が裏付けられる形となった。また、一体型は新改築により整備されている割合が高いため築年数が比較的浅く、児童生徒数あたりの保有面積にも比較的余裕があるため、これらも要因となっていることが考えられる。

学校再整備に向けて想定される課題



- 平地面積の確保
- 再整備の期間中の仮設校舎への通学
- 1校約50億円の整備費
- グラウンド面積
- プール
- その他



長柄・堀内地区の小中一貫校イメージ

学校再整備に係る期間の想定

	R7	—	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
小中一貫校 建設敷地	基本方針公表	周知・調整機関			解体					
						敷地造成・新校舎建設等				
基本計画・ 支援業務			プロポーザ ル・設計施 工一括	工事監理業務						
仮設校舎 建設敷地				建設	仮設校舎借り上げ					解体
	設計	工事監理 業務								

新しい時代の学びを実現する学校施設

01 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

多様な学習活動を展開できる学習空間



教室空間において、紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていく姿

07 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備



学校図書館とコンピュータ教室を組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく姿

10 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

学校における働き方改革を推進し、ハイパフォーマンスを最大化するための執務空間



常時ICTが活用できる環境を整備し、教職員が円滑に執務、打合せ、協働作業等を行うことができる執務空間としていく姿

16 【共創】ともに創造する共創空間を実現する

多様な「知」を連携するための相合化・共有化等



他の公共施設（図書館等）との相合化・共有化を図り、多様な「知」を連携する共創空間としていく姿

18 【安全】安全・安心な教育環境を実現する

避難所としての防災機能の強化



地域の避難所として、バリアフリー化、水害対策など防災機能を一層強化するとともに、居住性等を確保していく姿

19 【環境】持続可能な教育環境を実現する

脱炭素社会の実現を目指す学校施設整備



省エネルギー化や再生可能エネルギーを導入等を積極的に進め、環境教育での活用や地域の先導的役割を果たしていく姿

新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について
（令和4年3月学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議）

学校施設の再整備に向けた取組の流れ



R7 夢をかたちにしていく

- 学校の再整備に向けた具体的な取り組み (中長期)

R6 町制100周年 夢を方針に変換する

- 第四次教育総合プラン
- 学校施設の再整備に関する方針の公表 など

R5 夢を語る

- スクールミーティング (学校運営協議会)
- 学校施設あり方検討委員会の設置 など

R4 ヒントを集める・準備する

- スクールミーティング (PTA)
- リノベーション可能性調査 など



小中一貫教育等のこれまでの経過概要

小中一貫教育の 必要性・有効性 に関する検討・ 周知を先行させ る方針に基づき 実施してきた 主な取組

- 令和2年9月4日「小中一貫教育在り方検討会議」を設置し、小中一貫教育の検討スタート
- 令和3年度「小中一貫教育推進会議」「小中一貫教育推進ブロック会議」を設置し、推進を加速
- 令和3年度末、学校教育シンポジウム「Society5.0時代の教育展望と小中一貫教育」を開催（94名参加）
- 令和4年度「小中一貫教育推進会議」を継続設置、「はやま科研究会」を設置し、探究学習を強化
- 令和4年度南中ブロック学校運営協議会設置
- 令和4年度、各校のPTA役員を対象にスクールミーティングを開催（延べ99名参加）
- 令和4年度末、学校教育シンポジウム「私たちの望む未来（Future We Want）の実現に向けて」を開催（104名参加）
- 令和5年度「楽校改革戦略会議」「教育委員会・学校連携プラットフォーム」の設置
- 令和5年度葉中ブロック学校運営協議会設置
- 令和4年度から、葉山町PTA連絡協議会、各校のPTAの役員会議、学校運営協議会に参加し、小中一貫教育の必要性・有効性を説明

施設一体型 小中一貫校の 必要性・有効性 に関する周知

- 令和5年6月、議員懇談会で小中一貫教育及び施設一体型小中一貫校の必要性・有効性を説明
- 令和5年度から、PTAを含む学校運営協議会で施設一体型小中一貫校の必要性・有効性を確認
- 令和5年8月、意見交換会で施設一体型小中一貫校の整備を目指すことを説明
- 令和5年11月、神奈川新聞で小中一貫校整備について6月議会で説明した内容で記事掲載
- 令和5年11月「未来の楽校を考えるワークショップ」を開催（53名参加）

* 詳細は「楽校をつくる取組一覧」参照



小中一貫教育の必要性・有効性は十分に浸透している
→令和6年度から実現化のフェーズへ

施設系（前提①） 学校施設の老朽化の状況

本校舎

学校	竣工年月日	築年数 (令和5年4月1日時点)
葉山小学校	昭和45年3月31日	53年
上山口小学校	昭和47年7月31日	50年
長柄小学校	昭和51年3月31日	47年
一色小学校	昭和44年3月31日	54年
葉山中学校	昭和58年3月31日	40年
南郷中学校	昭和56年1月31日	42年

葉山中学校屋上防水

No. 建02



校舎
屋上 アスファルト保護防水

- 設置/更新年： 1983年
- 状況
著しい劣化・損傷が見受けられる。
広範囲にひび割れ、変質、排水不良、雑草、目地シーリングの
損傷が見受けられる。
下階では天井の漏水が複数箇所ある。
- 診断
早急な更新が必要である。

長柄小学校給排水

No. 衛27

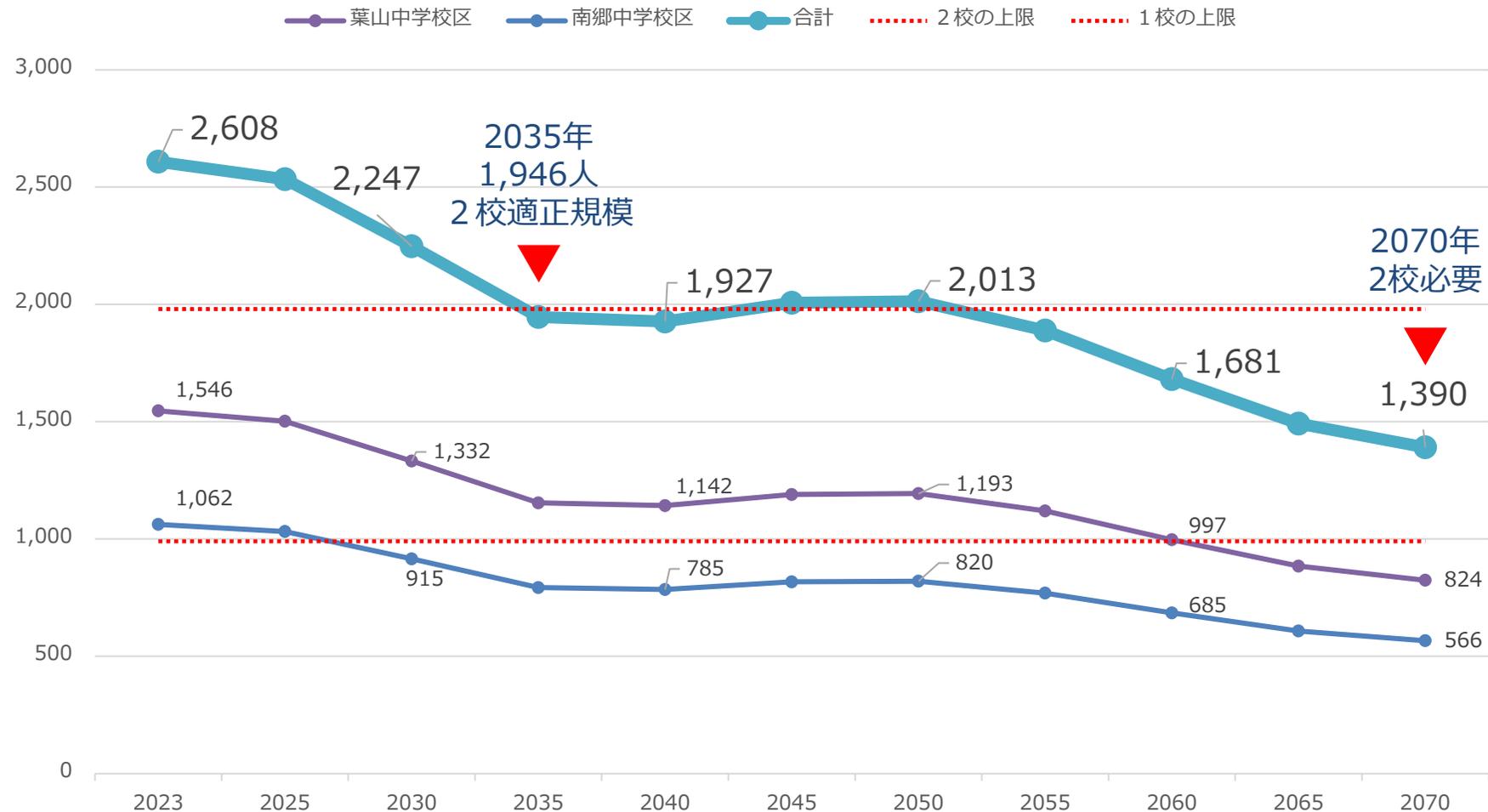


屋外 揚水配管（校舎・プール）

- 設置/更新年： 1976年
- 状況
広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
- 診断
更新時期を超過している為、早期の更新を推奨する。

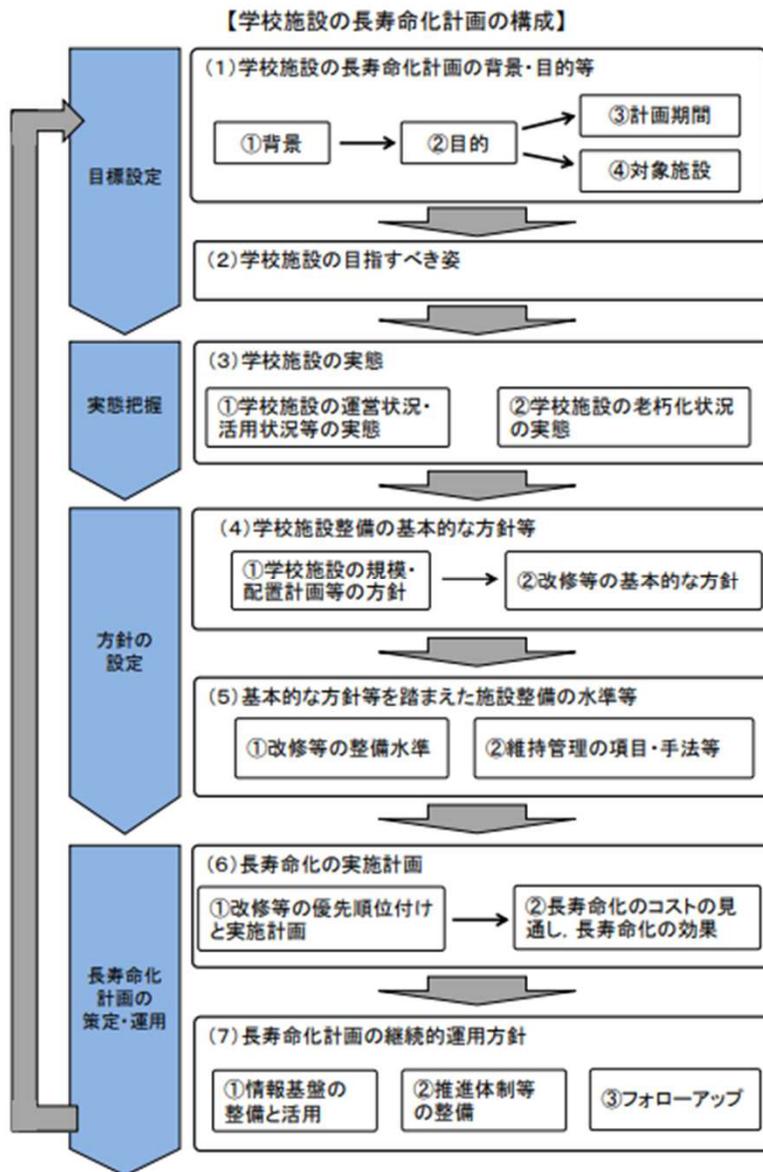
出典：劣化診断調査（令和元年度実施）

施設系（前提②） 児童生徒数の将来推計



※令和5年5月1日現在の児童生徒数に年少人口の減少率（第四次葉山町総合計画後期基本計画人口推計）を乗じて算出
 ※上限の設定：小学校35人×18学級＝630人、中学校40人×9学級＝360人、合計990人（文科適正規模：小中18学級、義務教育27学級）

施設系（前提③） 長寿命化計画（個別施設計画）



（6）長寿命化の実施計画

①改修等の優先順位付けと実施計画

今後の学校施設の改修等に関する優先順位付けの考え方を示した上で、今後の改修等の内容や時期、費用等を整理し、年次計画を策定する。計画策定時点において、個々の施設に係る規模・配置計画等の方針が立っていない場合には、今後の検討を踏まえ、改訂のタイミングで計画に反映する。

②長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

計画に従って長寿命化を行った時のコストの見通しを明らかにする。また、改築中心の場合とのコストの比較・評価を行い、長寿命化の効果を明らかにする。その他、必要に応じて定性的な評価も行う。

出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る手引（文部科学省）

R1施設系① 令和元年度劣化診断調査結果

学校	30年間の修繕・更新費用	最小限更新費
葉山小学校	30億円	約8.6億円
上山口小学校	23億円	約7.6億円
長柄小学校	33億円	約10.5億円
一色小学校	24億円	約8.9億円
葉山中学校	36億円	約10.6億円
南郷中学校	30億円	約10.9億円
合計	176億円	約57.1億円

出典：劣化診断調査（令和元年度実施）

全校修繕は不適當

R1施設系② 令和元年度劣化診断調査結果 (サマリ)

建物情報一覧表

■:築50年以上 □:築30年以上 基準 2020

A:概ね良好 C:広範囲に劣化
B:部分的に劣化 D:早急に対応する必要がある

通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟 番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		構造躯体の健全性					劣化状況評価					備考						
					固定資 産台帳 番号	学校種別				建物用途	西暦	和暦	耐震安全性		長寿命化判定			屋根・ 壁上	外 壁	内 部 仕 上	電 気 設 備		機 械 設 備	健全度 (100点 満点)				
													基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度 (N/㎡)								試算上 の区分	調査年度	圧縮 強度 (N/㎡)	試算上 の区分
1	1	葉山小学校	校舎(教室棟)	1	1	小学校	校舎	RC	3	2,557	1971	S46	49	旧	済	済	2001	-	長寿命	D	D	C	C	C	29	H2002 補強済		
2	2	葉山小学校	校舎(管理・教室棟)	2	2	小学校	校舎	RC	3	2,511	1972	S47	48	旧	済	済	2001	-	長寿命	D	D	C	C	C	29	H2002 補強済		
3	3	葉山小学校	体育館	3	3	小学校	体育館	S	2	760	1973	S48	47	旧	済	済	-	-	長寿命	B	B	D	C	C	42	H2007 補強済		
4	4	葉山小学校	給食室	4	4	小学校	給食センター	RC	1	294	1978	S53	42	旧	-	-	-	-	要調査	C	C	C	C	C	40	耐震化未確認		
5	5	葉山小学校	プール付属棟	5	5	小学校	その他	RC	1	89	1975	S50	45	旧	-	-	-	-	要調査	D	D	C	C	C	29	耐震化未確認		
6	6	上山口小学校	校舎(教室棟)	6	6	小学校	校舎	RC	3	830	1979	S54	41	旧	済	済	1996	-	長寿命	B	C	C	C	C	43	H2006 補強済		
7	7	上山口小学校	校舎(管理・教室棟)	7	7	小学校	校舎	RC	3	2,651	1972	S47	48	旧	済	済	2004	-	長寿命	B	C	C	C	C	43	H2006 補強済		
8	8	上山口小学校	体育館	8	8	小学校	体育館	S	2	759	1977	S52	43	旧	済	済	2008	-	長寿命	D	C	D	C	C	26	H2010 補強済		
9	9	上山口小学校	給食室	9	9	小学校	給食センター	RC	1	180	1974	S49	46	旧	-	-	-	-	要調査	C	D	C	C	C	31	耐震性あり		
10	10	上山口小学校	プール付属棟	10	10	小学校	その他	RC	1	90	1978	S53	42	旧	-	-	-	-	要調査	D	B	B	C	C	61	耐震化未確認		
11	11	長柄小学校	校舎(管理・普通教室・トイレ棟)	11	11	小学校	校舎	RC	3	4,868	1976	S51	44	旧	済	済	2007	-	長寿命	A	D	D	C	C	25	H2009 補強済		
12	12	長柄小学校	校舎(増築教室棟)	12	12	小学校	校舎	RC	3	577	1980	S55	40	旧	済	済	2007	-	長寿命	A	D	D	C	C	25	H2009 補強済		
13	13	長柄小学校	体育館	13	13	小学校	体育館	S	2	1,002	1979	S54	41	旧	済	済	1997	-	長寿命	D	B	D	C	C	36	H2009 補強済		
14	14	長柄小学校	プール付属棟	14	14	小学校	その他	RC	1	143	1977	S52	43	旧	-	-	-	-	要調査	D	D	B	C	C	42	耐震化未確認		
15	15	長柄小学校	渡り廊下	15	15	小学校	その他	S	2	83	1991	H3	29	新	-	-	-	-	長寿命	A	D	C	C	C	37			
16	16	一色小学校	校舎(管理・教室棟)	16	16	小学校	校舎	RC	3	4,652	1969	S44	51	旧	済	済	1995	-	長寿命	B	C	C	C	C	43	H2003 補強済		
17	17	一色小学校	校舎(増築教室棟)	17	17	小学校	校舎	RC	3	990	1977	S52	43	旧	済	済	2011	-	長寿命	B	C	C	C	C	43	H2013 補強済		
18	18	一色小学校	体育館	18	18	小学校	体育館	S	2	1,020	1995	H7	25	新	済	済	1996	-	長寿命	C	D	C	C	C	31			
19	19	一色小学校	プール付属棟	19	19	中学校	その他	RC	1	57	1983	S58	37	新	-	-	-	-	要調査	C	C	B	C	C	53	耐震化未確認		
20	20	葉山中学校	校舎	20	20	中学校	校舎	RC	3	6,651	1983	S58	37	新	-	-	-	-	長寿命	D	D	C	C	C	29			
21	21	葉山中学校	体育館	21	21	中学校	体育館	RC	2	1,281	1984	S59	36	新	-	済	-	-	長寿命	D	B	C	C	C	48			
22	22	葉山中学校	プール付属棟	22	22	中学校	その他	RC	1	231	1983	S58	37	新	-	-	-	-	長寿命	C	B	C	C	C	50			
23	23	南郷中学校	校舎	23	23	中学校	校舎	RC	3	5,533	1981	S56	39	旧	済	済	2008	-	長寿命	A	D	C	C	C	37	H2010 補強済		
24	24	南郷中学校	体育館	24	24	中学校	体育館	RC	2	1,318	1982	S57	38	新	済	済	2008	-	長寿命	B	D	C	C	C	34	H2010 補強済		
25	25	南郷中学校	プール付属棟	25	25	中学校	その他	RC	1	166	1981	S56	39	旧	-	-	-	-	要調査	B	D	A	C	C	57	耐震化未確認		

出典：劣化診断調査（令和元年度実施）

R4施設系① 調査結果及びリノベーション可能性評価

調査項目		葉山小学校				一色小学校				葉山中学校	
		校舎 (教室棟)	校舎 (管理棟)	給食室	屋内運動場	本校舎	増築校舎	給食室	屋内運動場	校舎	屋内運動場
圧縮強度試験	コア採取による試験	○ 設計基準を上 回る数値	△ 設計基準強度 を若干下回る 数値	○ 設計基準強度 を上回る数値	○ 設計基準強度 を上回る数値	○ 設計基準を上 回る数値	○ 設計基準を上 回る数値	○ 設計基準を上 回る数値	○ 設計基準を上 回る数値	○ 設計基準を上 回る数値	○ 設計基準を上 回る数値
	反発度法による試験	○ 設計基準を上 回る数値	○ 設計基準を上 回る数値	-	○ 設計基準を上 回る数値	○ 設計基準を上 回る数値	○ 設計基準を上 回る数値	-	-	-	-
中性化深さ測定調査		○ ほとんど中性 化の進行は認 められない	○ ほとんど中性 化の進行は認 められない	○ ほとんど中性 化の進行は認 められない	△ 比較的中性化 の進行が認め られる	○ ほとんど中性 化の進行は認 められない	○ ほとんど中性 化の進行は認 められない	○ ほとんど中性 化の進行は認 められない	△ 比較的中性化 の進行が認め られる	△ 比較的中性化 の進行が認め られる	△ 比較的中性化 の進行が認め られる
塩化物イオンの試験 (40~60mmの深さの塩化物イオン量)		1.58kg/m ³	0.13kg/m ³	0.05kg/m ³	0.74kg/m ³	0.97kg/m ³	0.09kg/m ³	0/07kg/m ³	0.06kg/m ³	0.18kg/m ³	0.07kg/m ³
含水率測定調査 (50~75mmの深さの質量含水率)		6.12%	5.33%	4.92%	4.92%	4.85%	4.78%	5.99%	5.62%	5.70%	6.45%
鉄筋腐食度調査 (グレード)		○ 縦・横：Ⅰ	○ 縦・横：Ⅰ	○ 縦・横：Ⅰ	△ 縦：Ⅱ 横：Ⅰ	○ 縦・横：Ⅰ	○ 縦・横：Ⅰ	○ 縦・横：Ⅰ	○ 縦・横：Ⅰ	○ 縦・横：Ⅰ	○ 縦・横：Ⅰ
アスベスト分析調査		無(外壁)	無(外壁)	-	-	無(外壁)	無(外壁)	-	-	-	-
リノベーション可能性評価		可能性「有」				可能性「有」				可能性「有」	

出典：学校建物躯体・リノベーション調査（令和4年度実施）

リノベーション可能性「有」

R4施設系② リノベーション+増築シミュレーション

葉山小学校パターン



一色小学校パターン



R4施設系③ リノベーション可能性全体所見

	既存施設のリノベーション+増築		解体後の新築	
	評価	説明	評価	説明
仮設校舎	×	仮設校舎が必要	△	既存校舎を使用し、仮設校舎を建設しないことも可能。既存校舎を使用できる場合、児童・生徒の負担が少ない
配置計画	×	制約あり	○	ゾーニングしやすく利便性の向上が図りやすい
内部レイアウト	×	制約あり	○	制約がなく、新しい学びの環境を実現しやすい
グラウンド面積	×	既存面積より減少	○	既存グラウンドと同面積程度を確保できる
工期	○	新築に比べ工期短縮が可能	—	建築に一般的に3年～4年程度（解体を含む）かかる
使用可能年数	×	RCの場合、通算80年が限度となるため、築50年の施設は、30年しか使用できない	○	適切な維持管理により80年使用可能
費用	○	新築の8割程度（3校平均82%）	—	—
国庫補助	△	学校施設環境改善交付金 ＜長寿命化改修＞補助率1/3	○	公立学校施設負担金 ＜新增築＞補助率1/2
その他	△	新築に比べ廃棄物が少ない	×	廃棄物が多く発生する。

出典：学校建物躯体・リノベーション調査（令和4年度実施）

葉山では新築が最適

分離型の小中一貫校と義務教育学校

制度上の形態		概要	施設の形態		
			一体型	隣接型	分離型
小中一貫校 (一般的な呼称)	中学校併設型小学校 及び 小学校併設型中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 義務教育段階を通じて目指すこども像を共有する、同一の設置者による小学校と中学校（いずれも学校数を問わない）が、9年間を通じた系統的な教育課程を編成し、小中一貫した教育を行う形態の一つ。 ● これに含まれる小学校・中学校は、あくまでも組織上独立した学校（それぞれに校長と教職員組織を有する）だが、上記の教育内容から「小中一貫校」（その最初の段階）と称することは十分可能。 ● 上記の小中一貫校制度を施行するには、小学校・中学校とも、それにふさわしい運営の仕組み（関係校を一体的にマネジメントする組織（例：△△学園等）の設置等）を整えることが必要。 ● 一貫教育の軸となる新教科等の創設や、学校段階間での指導内容の入れ替え等、一貫教育の実施に必要な教育課程の特例の実施が設置者の判断によって認められる。 	○	○	○
	義務教育学校 (H28年学校教育法改正により制度創設)	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校・中学校とは異なる一つの「校種」であり、一人の校長と一つの教職員組織によって運営される単独の学校。 ● 「中学校併設型小学校」及び「小学校併設型中学校」と並んで、義務教育段階を通じて目指すこども像を共有しつつ、9年間を通じた系統的な教育を行う形態。 ● 義務教育9年間にわたる単一の学校目標を持ち、9年間の系統性を十分確保した教育課程を編成する学校。 ● 小中一貫教育の深化が図りやすい「小中一貫校」の最終的な形態。 	○	○	○

ここまでのまとめ

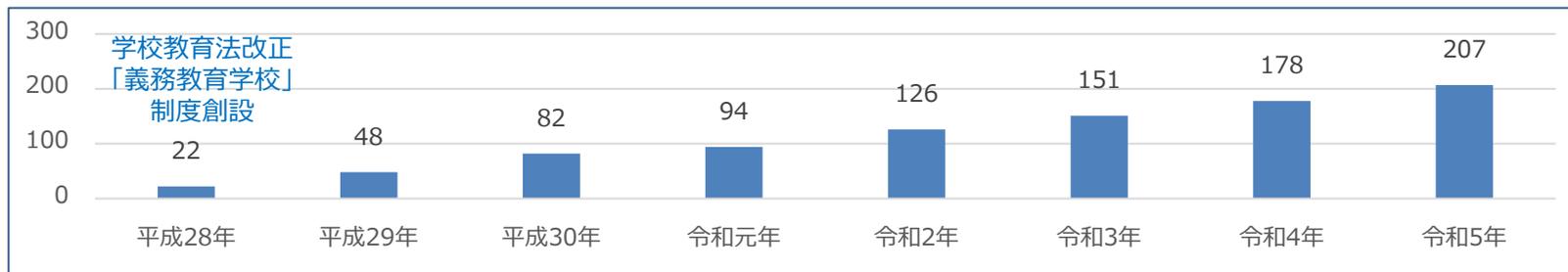
1. 教育に係る検討



2. 学校施設に係る検討



3. 義務教育学校の数



葉山町では、

義務教育学校の整備が最適

今後の取組の流れ（案）



今後の推進体制（案）

